

稚内北星学園大学 2020 年度入学式・式辞

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。稚内北星学園大学を代表して、みなさんを歓迎し、入学をお祝いいたします。新入生のご家族、関係者のみなさまにも心からお喜びを申し上げます。また、本日の出席は叶いませんが、稚内市長をはじめ地域の各界の方々から、この門出の日への祝福をいただいておりますことを申し添えます。

学校法人稚内北星学園は 1987 年、「この地に高等教育機関を」という稚内・宗谷の人々の熱い思いを受け、道内初の公設民営という形で設立されました。英文学科と経営情報学科を擁する短期大学として出発しましたが、当時から、日本で初めてインターネットの学習を全学必修とするなど、情報教育の分野ではユニークな存在でした。2000 年には四年制大学に改組されて情報メディア学部を置き、コンピュータおよびネットワークの技術とそれに関わるアート表現や社会的機能などを含めた多角的・総合的な研究・教育に携わっています。

また本学は「地域に貢献する人材の育成」を旨としており、自治体や教育界、産業界との連携を進めてきました。特に 2014 年から 5 年間の COC「地（知）の拠点整備事業」に選定されたことをきっかけにして、学生が〈街を教室に〉して地域課題に取り組む実践的な学びが多様に繰り広げられました。

例えば、稚内市・豊富町などにおける小中学生への学習支援は、子どもたちに喜ばれ頼りにされる活動として定着していると同時に、教員を目指す学生自身にとって貴重な経験となっています。数々の高い評価を得ている、地域情報を発信する映像作品の制作は、取材し議論し創造する学びの実践となりました。わからないコーヒーフェスティバルなどのイベントの企画・運営においては、市民との交渉や交流が欠かせず、そのことが社会人基礎力を育む機会となりました。

この過程で大学全体としても、稚内市はもとより利尻町、豊富町、猿払村、稚内開発建設部、宗谷総合振興局との包括連携協定を締結し、協力関係を積み上げてきました。また稚内市の子育て運動の歴史に連なる「幼保小中高大連携」の輪に加わって、子どもの貧困問題対策などにおいて学生とともに一定の役割を果たしています。また「稚内キャリアデザイン」構想の下で、稚内高校、稚内大谷高校との三者連携を結び、今年度からカリキュラム上の協力関係を強めることとなっています。

いま本学は、「情報メディアで社会に新しい価値をつくる」という全学的な目標を掲げて研究・教育活動を進めています。今回の新型コロナウイルスのパンデミックへの対応という点で情報メディアがどのように関わっているかを見てみると、疾病情報を世界レベルで

共有するネットワークシステム、医療現場で活用されるロボットとそれを制御する AI、感染状況を分析するデータサイエンスとそれをわかりやすく可視化するインフォグラフィックス、そして錯綜する情報から有用なものを選択、体系づけるリテラシーなどがあげられます。

いずれも、情報メディア学が対象とする領域であり、本学で学べる内容です。ことにデータサイエンスや AI、センシング技術や IoT については今後カリキュラム上で強化し、地域社会が抱える課題にも実践的に取り組んでいく予定です。みなさんとともに、社会に新しい価値を創造する営みに参加してください。

大学で学ぶ醍醐味は、自らの関心に応じて自ら調べ、問題を立て、議論し、成果を創り出すというところにあります。簡単ではありません。学べば学ぶほど、自分の知っていることがいかに少ないかがわかってきます。同時に、学べば学ぶほど、自分が変化した分、世界が違って見えてきます。それはとてもエキサイティングで楽しい経験です。みなさんには是非、学ぶ楽しさを知り、それを生きる力として身につけ、情報メディアを社会に生かす担い手になっていただきたいと願っています。

この 1 年、本学の存続をめぐるには紆余曲折があり、みなさんに入学を躊躇させてしまうようなこともあったかもしれません。しかし、稚内北星学園大学は、新たなステップを踏み出しました。スタッフ一同、先輩、地域の方々がみなさんの学業と生活を支援します。どうか安心して、旺盛に学んでください。

2020 年 4 月 1 日

稚内北星学園大学 学長 齊藤吉広